

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも...

Vol.14  
地域で頑張る団体  
たとえば老人クラブ



昨秋、市老人クラブ役員との懇談会で、クラブの活動についていろいろと話を聞く機会がありました。

市内の高齢者数は年々増加しており、人口1万8929人（6月末日現在）のうち高齢者は6922人で、高齢化率36.6%となっています。今後、団塊の世代が75歳以上になる2025年をピークにさらに上昇していきます。

市老人クラブ連合会は、創立54年の歴史と伝統ある高齢者団体として「健康・友愛・奉仕」の三大目標を掲げて、それぞれの地域で「高齢者の健康づくりのために」「お互い助け合いのために」「地域のために」などのためになる活動を行っています。まさに地域において欠くことのできない団体です。

一方、高齢者人口は増加するにも関わらず、老人クラブへの加入者は減少し、現在26クラブ、会員2566人で構

成されています。2000年のピーク時には35クラブ、会員4050人でした。会員の減少が続いている状況です。

また、役員のみならず、会員の高齢化で活動に支障が出てきており、会員の増強、未組織地区の組織化、休会地区の再開・防止、リーダーの育成が今後の大きな課題となっているとのことでした。

今回、市老連のお話を中心にコラムに取り上げさせていただきます。ただきでしたが、老人クラブに限らず、子ども会や婦人会などさまざまな団体が、この人口減少の流れを受け、それぞれが苦心されていると各所で耳にしているところ

です。市としては、これから、それぞれが幸福を実感できる地域づくりのために、みなさんを支援しつつ、また力



をお借りしながら市政を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願います。そういったことの何かのヒントになるでしょうか。新しい試みとして「ふるさとがえり」映画上映会を市内各所で開催しています。地域の中で、何のために誰と生きるのか・・・今回のコラムのモヤモヤ感に一石を投じてくれるような内容です。わたしの都合が合えば、上映会後、一緒に感想を語り合うという趣向になっています。申し込みは市民課です。団体でも有志でもかまいません。5人以上集まっていたら、上映会は無料です。ぜひ、次回は、あなたのそばで・・・



Vol.172  
市民課人権・生活係 ☎ 1126

## 平和について考えよう ～甲子園球場での黙とう～

第一〇〇回全国高等学校野球選手権記念大会が、8月5日から21日までの間、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で開催されます。

全国都道府県の代表56校の球児たちが真夏の太陽の下、大観衆の支援を受けながら、優勝を目指して連日わたって熱戦を繰り広げる姿は、わたしたちに勇気と感動を与えてくれます。

今年で一〇〇回目を迎える夏の甲子園大会ですが、昭和16年から昭和20年までの間、第二次世界大戦の影響により、中断されていました。また、戦況の悪化に伴い、高校球児たちは、野球を離れて戦地へ徴兵され、多くの犠牲者を出しました。

終戦後初めてとなる第28回

夏の高校野球大会が開催されたのは、終戦からちょうど1年後の昭和21年8月15日でした。当時は、野球道具はおろか食料もない状況の下、ユニフォームは自作し、各チームは食料を持参して大会に臨んだそうです。その後も食糧難が続き、負けたチームが勝ったチームに無償で食料を分けてあげるなど、高校球児たちが助け合っていたというエピソードも残っています。

大会期間中である8月15日の終戦記念日の正午には、試合を一時中断して、選手をはじめ観客など球場全体で戦没者の慰霊と永遠の平和を祈念して黙とうがささげられます。

この黙とうは、昭和38年の第45回大会から始まっています。戦後73年を迎え、先の大戦を知る人や語り継ぐ人が年々少なくなっていく中、後世を生きるわたしたちが、先人の苦勞、今日ある平和への感謝、そして戦争について、改めて考えさせられる場、また感じられる場が、夏の甲子園球場にあります。

